

吉野氏 ノーベル化学賞



発行所 秋田魁新報社
〒010-8601
秋田市山王臨海町1番1号
©秋田魁新報社 2019年

号外

購読申し込み

0120-13-1231

电子版

www.sakigake.jp

モバイル

m.sakigake.jp



詳しくは「秋田魁新報」朝刊、「秋田魁新報」電子版「さきがけMOBILE」をご覧ください。

リチウムイオン電池開発

【ストックホルム共同】スウェーデンの王立科学アカデミーは9日、2019年のノーベル化学賞を旭化成名誉フェロ



リチウムイオン電池(右)とスマートフォンを手にする旭化成名誉フェローの吉野彰氏=2018年9月、名古屋市

ーで名城大教授の吉野彰氏(71)ら3氏に授与すると発表された。スマートフォンなどに広く使われるリチウムイオン電池を開発し、現在の情報化社会を支える成果として高く評価された。

日本人のノーベル賞受賞は27人目で、昨年、医学生理学賞に選ばれた本庶佑京都大特別教授(77)に続く快挙。化学賞は10年の鈴木章北海道大名誉教授(89)と根岸英一米パデュー大

名誉特別教授(84)以来で8人目。

共同受賞は、米テキサス大オースティン校のジョン・グッドイナフ教授(97)ら。

リチウムイオン電池は何度も充電して使える2次電池。正極と負極の間をリチウムイオンが移動して充電や放電する。吉野氏は1980年代、炭素材料の負極とコバルト酸リチウムの正極を組み合わせ、基本的な構成を確立した。